

ウクライナにおける戦闘の即時停止を訴えます

「そこで、イエスは彼に言われた、『あなたの剣をもとの所におさめなさい。剣をとる者はみな、剣で滅びる』。(マタイによる福音書 26:52)

「イエスのそばにいた人たちは、事のなりゆきを見て、『主よ、つるぎで切りつけてやりましょうか』と言って、そのうちのひとりが、祭司長の僕に切りつけ、その右の耳を切り落した。イエスはこれに対して言われた、『それだけでやめなさい』。そして、その僕の耳に手を触れて、おいやしになった」。(ルカによる福音書 22:49-51)

今からちょうど 90 年前の 1932 年 3 月、日本は清朝最後の皇帝であった宣統帝溥儀を即位させ、満洲国の独立を宣言させました。この暴挙は国際連盟によって派遣されたリットン調査団によって明らかな侵略行為であると認定され、翌年に行われた国連総会では 44 カ国中 42 カ国の賛成（日本反対、シヤム棄権）により、リットン報告書の採択と満洲国不承認が決議されました。

しかし、このような世界を挙げての非難の中で日本は国連を脱退して孤立化の道を歩み、厳しい経済制裁の下で東アジア及び太平洋地域への侵略の道を突き進みました。その全貌はいまだ明らかになっておらず、私たちは何世代にもわたって戦争がもたらした惨禍に向き合わなければならない状況にあります。

この歴史的な事実、世界がどれほどロシアの不当性を訴え、厳しい経済制裁を加えたとしても、それによってロシア・ウクライナ戦争が治まるわけではないことを想像させます。

今、ロシアによるウクライナ侵攻と原発への攻撃、市街地や病院への爆撃が進行している中で、かつて国際社会に背を向けて侵略戦争に突き進んだ歴史を持つと共に、核戦争の戦場となり、しかもチェルノブイリに匹敵する原発事故を経験した国として、日本は、ロシア・ウクライナ戦争の即時停止のために声を上げるべき責任があるのではないのでしょうか。

この度のウクライナ侵攻が国連憲章に明白に違反すること、原発への攻撃が将来にわたって人類全体に対する危機を招きかねないこと、さらに病院への攻撃が 8 万人ともいわれる出産予定の妊婦たちに不安と絶望を与えていることなど、ロシアによる暴挙には多くの非難がなされるべきだと思います。

しかし同時に、ロシアに対して厳しい経済制裁を科し、ウクライナに武器や戦闘機、兵士の供与などがなされることも、ロシアとウクライナの双方における人的・物的な被害をいたずらに拡大し、事態を深刻化させるほかないものです。

私たちは、刻々と拡大する市民の被害を前にして、世界各国の為政者たちがそれぞれの主義主張をひとまず脇に置き、戦闘を即時停止するように働きかけ、これ以上、かけがえのない生命や生活が破壊されることのないように、人間的で理性的な判断を発揮して下さるよう要請致します。

この戦争の発端となった領土問題は、民族や人種、言葉や宗教の同一性などを論拠として一方的な現状の変更を行うことが、いかなる大国によっても不可能であることを明らかにしました。国際社会は、係争地域に関して、国連の信託統治のもとに帰属を決定する自主投票のための10年を単位とした準備期間を設ける、あるいは独立国ではなく自治領とするなど、戦争によらない問題解決のための方策を求めるべきだと考えます。

戦争は、長引けば長引くほど、惨^{むご}たらしい悲劇を生み出し、その報いは、貧しいもの、病めるもの、子ども、女性、高齢者などが負うこととなります。人類は、これまでの愚かな戦争の歴史から学んだ知恵を結集して、この危機を乗り越えなければなりません。そのための努力を惜しまないことが、私たちに与えられた使命ではないでしょうか。

2022年3月10日（東京大空襲の記念の日に）

日本キリスト教会大会靖国神社問題特別委員会

委員長 小塩海平

*この文章は、委員会における意見の一致が見られなかったため、委員長の責任で表明しています。委員会が出された意見の一部を下記に要約して掲載しますので、ご参照ください。

-
- ・今回、ロシアを追いつめた側にも多大な責任があることを踏まえた上で、ロシアによる核の威嚇、原発への攻撃という点が、これまでの戦争と違っており、プーチンが戦術核を実際に使うのではないかと憂慮されることを鑑みれば、声明はロシアに対する批判が弱いのではないか。
 - ・経済制裁をまったくしないのがよいのか、するとしたらどこまでかということも熟慮すべき。
 - ・これまでのアメリカによるいくつもの横暴な戦争を黙認していた教会が、今回のロシアによる戦争に対して強固に反対するのはいかなるものか。
 - ・この世の論評とは違う聖書的な視点が弱く、信仰的観点が薄い。
 - ・今、靖国委員会として声明文を出す必要があるのか。むしろ、大会議長の声明文をさらに吟味し修正して、日本キリスト教会の声明文として建て上げることの方が、より建設的ではないか。